

全国高校総体女子ポイントレース
で優勝した松山学院の近田ちひろ
(提供写真)



全国高校総体

自転車女子ポイントレース優勝

「悔しい思いばかりしてきた。やっと勝てた」。松山学院の女子主将は、最後の夏に手にした個人タイトルをかみしめる。長く2位や3位に甘んじてきた実力者が、苦悩の日々を乗り越えた。パリ五輪代表の垣田真穂（早大）ら先輩の背中を追ってきた。「続かなきゃ、勝たなきゃ」。

主将を受け継いだ当初は、重圧の中で頂点を逃してきた。「考え過ぎず流れに任せた」というレースで壁を破った。「ずっと相手を見過ぎていた。自分なりにやろう」。開き直って自分自身に集中した。解き放たれた走りは、他の追隨を許さなかった。

近田 ちひろ 選手(18) || 松山学院高3年

全国高校総体男子ケイリンを制した松山学院の
山本逢真(提供写真)



全国高校総体

自転車男子ケイリン優勝

昨年3月の全国選抜大会ではスプリント1回戦敗退。そこからケイリンに種目を変え、夏の日本一に飛躍した。層の厚いチームで、なかなか大舞台の出場機会に恵まれなかったが、最後に力を示し「試合に出られるかどうか心配だった時期もある。競い合って強くなれた」と成長に胸を張る。

臨機応変の走りが光った。準決勝までは逃げに出たが、他選手が前を争う展開になった決勝では、脚をためて一気にまくった。「周りに自分が逃げるイメージを持たせられた」と大会通じての作戦が奏功。持ち前の高速ペダリングで、競輪選手への道を突き進む。

山本 逢真 選手(18) || 松山学院高3年